

公立大学法人鳥取環境大学中期目標(案)に対するこれまでの意見

○新生公立鳥取環境大学経営・教育研究審議会準備部会〔23年10月28日〕

- 中期目標として数値化にふさわしい項目もあれば、難しいものもある。あまり現実離れのしない、中身のあるものとしてほしい。
- TORC（地域シンクタンク）は社会貢献に関する項目に掲げてあるが、公開講座などだけでははく、学生への講義（教育）にもTORCの人材を活用すべきではないか。
→〔事務局〕講義を持つことを考えているが、詳細についてはこれから検討するところ。
- 学部改編に伴う初期投資を見込んでいるのか。
→〔事務局〕
 - ・教員養成課程のための実験施設の改修、備品の購入、図書購入等。
 - ・多文化交流空間（「英語村」（仮称））がうまく回り出したら、施設整備も考えていきたい。
- 評価制度や任期制度の導入が盛り込まれているが、こういった評価制度や任期制度は、今回のような大きな変化があるときに思い切って導入するのがいい。
→〔事務局〕評価制度は今年度試行しているところ。この状況を踏まえ、来年度導入する。現在、任期制度については無い状況。
- 大学は認証評価機関による第三者評価を受けることになっているが、それに合う形の中期目標となっているのか。
→〔事務局〕今の案ではまだ整合性がとれていない状況であり、すり合わせていく。
- 西部サテライトキャンパスの利用形態について、学生の遠隔地授業などの教育利用は需要を見て判断すれば良いと思う。社会人講座などは、すぐにでも充実できるのではないか。

○第7回新生公立鳥取環境大学設立協議会及び第2回新生公立鳥取環境大学経営・教育研究審議会準備部会合同会議〔23年11月25日〕

- TORCのノウハウを大学教育に活かすことを盛り込んでいただいたが、大学のこの10年を外から見ていて距離感を感じていた。さらに、地域の企業や団体のノウハウを教育に取り込む工夫をしてほしい。
- 教育に関する目標の中に、入学者受入方針だけではなく、あと教育編成方針と学位授与方針も必要。
- 計画づくりは現場とのすりあわせがとても大事。数値目標を努力目標として大学自体がそれに向かってどう進んでいくのが重要。
- 中期目標について、就職率に関する部分は独立した項目としてほしい。

- 学生の満足度、この大学に来て良かったということが、何よりも一番のPRとなるので、満足度を高める取り組みを組み込んでほしい。
- 教育に関する目標数値は、TOEICや資格取得率など数値化できるものはしっかりと設定してほしい。ただ、数値化が難しい場合もあり工夫が必要。
- 中期目標に2点盛り込んでほしい。一つは、経営の安定化を示す指標が不十分。例えば、収支差をいくら以内までとするなど、工夫してほしい。
- さすが鳥取環境大学という指標、例えばCO2排出量や国際的な環境に関する学術会議を開催するなど、対外的にもアピールできる、建学の理念に沿うような指標を入れてほしい。
- 開学以来11年という私学として苦労や努力したことを教訓として公立化後の大学運営に活かすべき。公立であるが、私学のような取り組みもしてほしい。
- 大学改革において、事務局の果たす役割は非常に大きい。経営の専門家など中核となる人を何人か入れることが大事。